

貿易収支・経常収支の動向について

平成27（2015）年3月5日

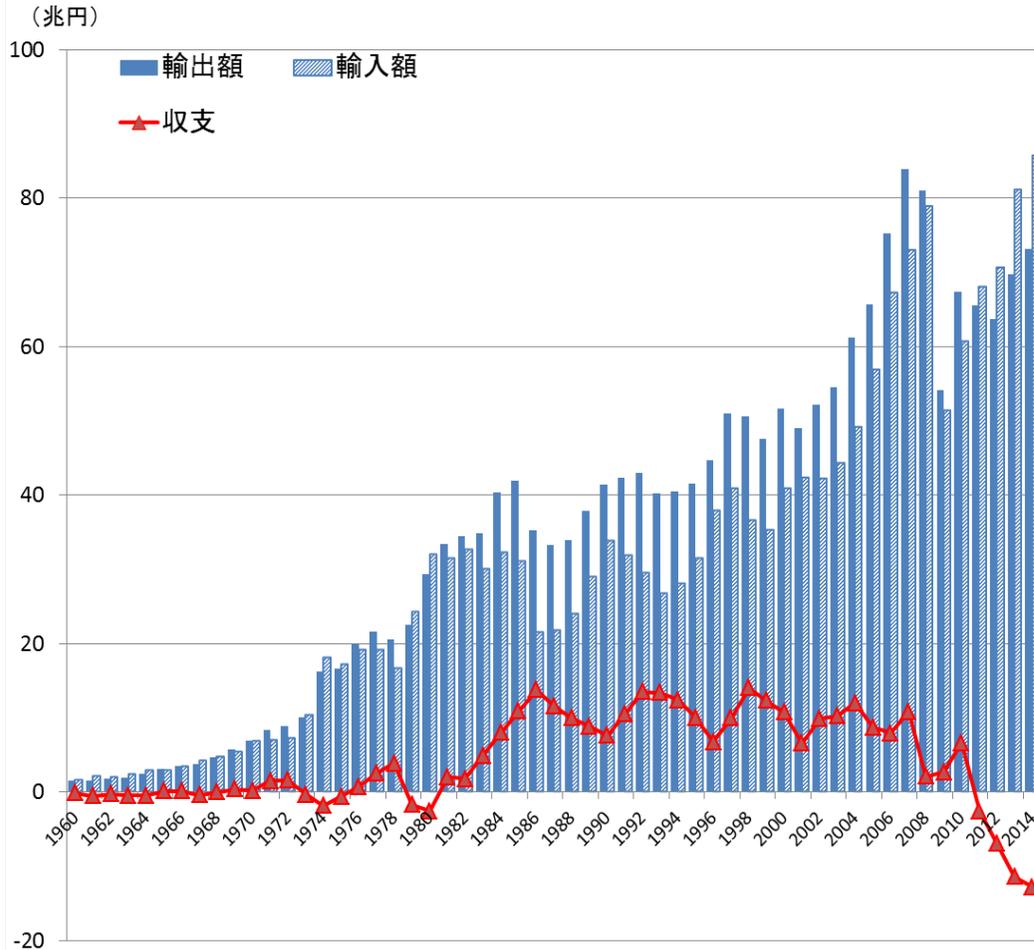
経済産業省通商政策局企画調査室長

清水 幹治

1. 貿易動向

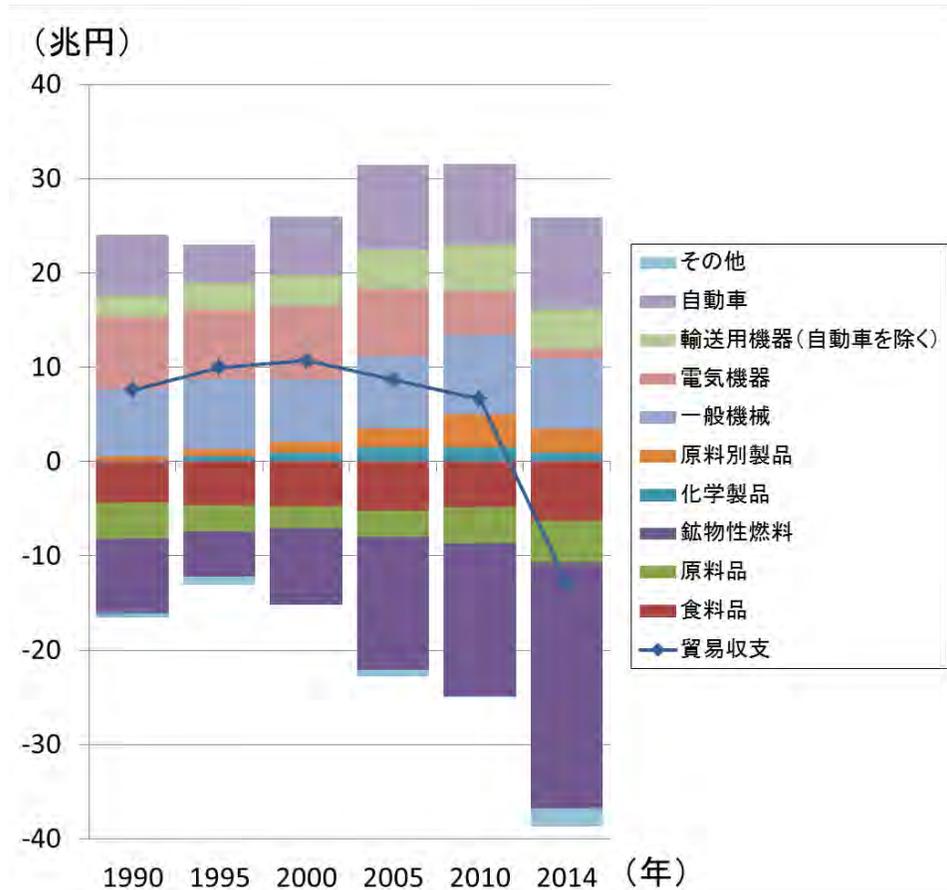
- ❑ 我が国は、1981年以降貿易黒字を計上していたが、2011年に貿易赤字に。
- ❑ 輸出入構造としては、電気機器の黒字幅縮小と鉱物性燃料の赤字幅拡大が赤字化の主要因。

【長期貿易収支推移（1960年～2014年）】



資料：財務省「貿易統計」から作成。

【主要品目別貿易収支（1990年～2014年）】



資料：財務省「貿易統計」から作成。

3. 円安でも輸出が伸びないことを巡る議論

外的要因

リーマンショック後の輸入の伸びはそれまでよりも緩やかに



【世界の輸入数量（季節調整値）

出所：CPB World Trade Monitor】

企業行動・ビジネスモデル

- 短期的な為替の変動は価格設定に影響しない
- 主要輸出品はドル建てで決済
- 海外生産の拡大（需要のあるところで生産）

競争力／高付

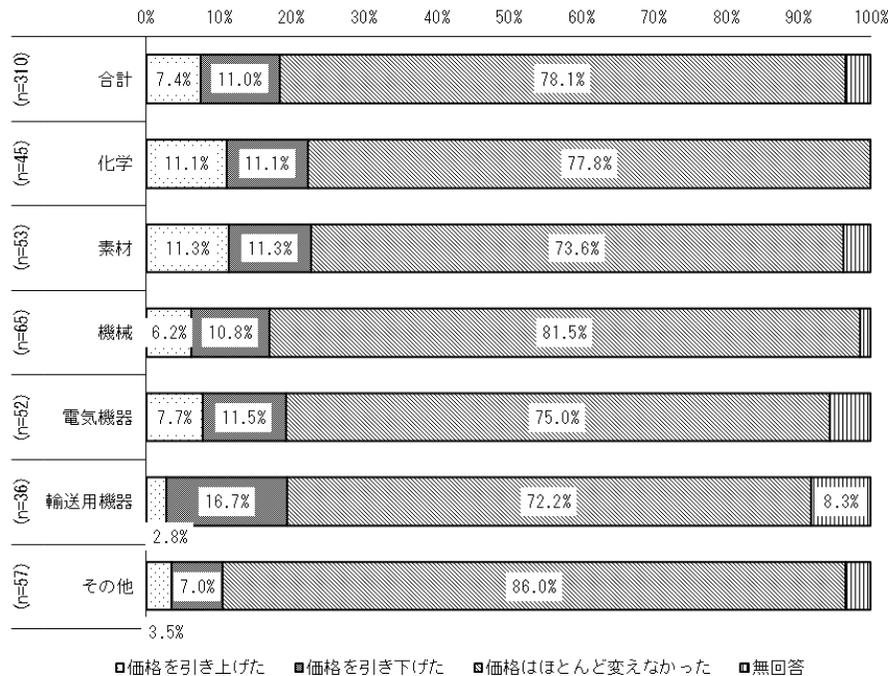
加価値化

- Made in Japanの製品の相対的な輸出競争力の変化
- Made in Japan製品の高付加価値化による輸出数量の増加幅低下

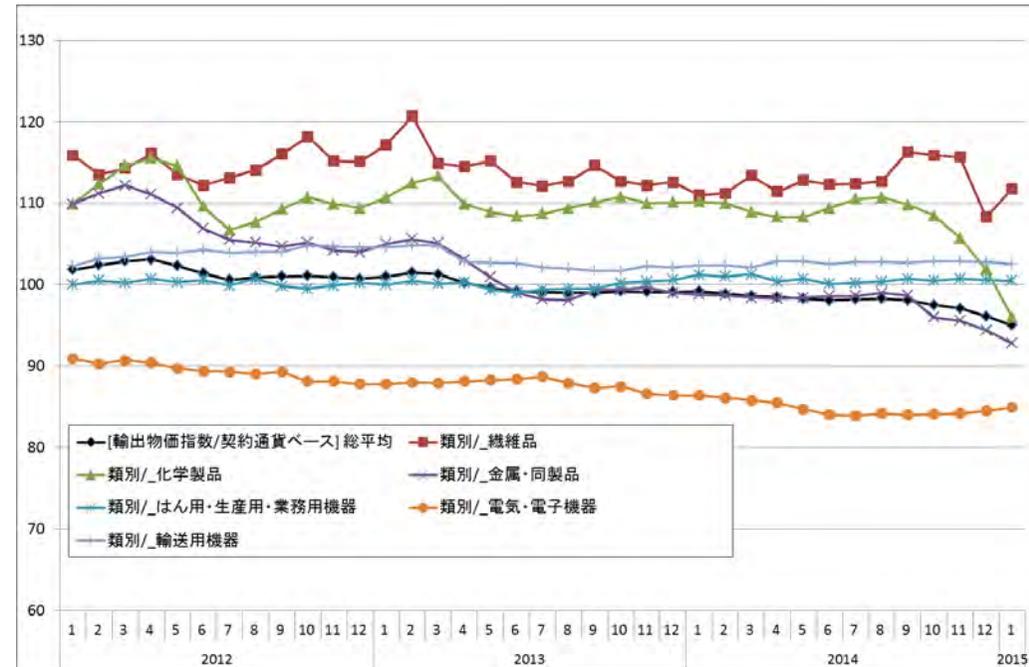
4. 為替動向と輸出価格に関する企業行動

- 2012年11月以降の主要輸出製品の契約通貨建て輸出価格の改定については、業種による差はややあるものの、7割強の企業が価格を変えていないと回答（2014年1月時点）
- 2012年末から2014年前半にかけて輸出物価指数に大きな変動はない。ただし、2014年後半以降、原材料価格低下の影響を受けた化学製品の価格低下の影響はうかがわれる。

【輸出価格の改定について（2012年11月以降）】



【契約通貨建て輸出物価指数の推移（全体・業種別）】



【資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「為替変動に対する企業の価格設定行動等についての調査分析」から作成。】

【出所：日本銀行 輸出物価指数】

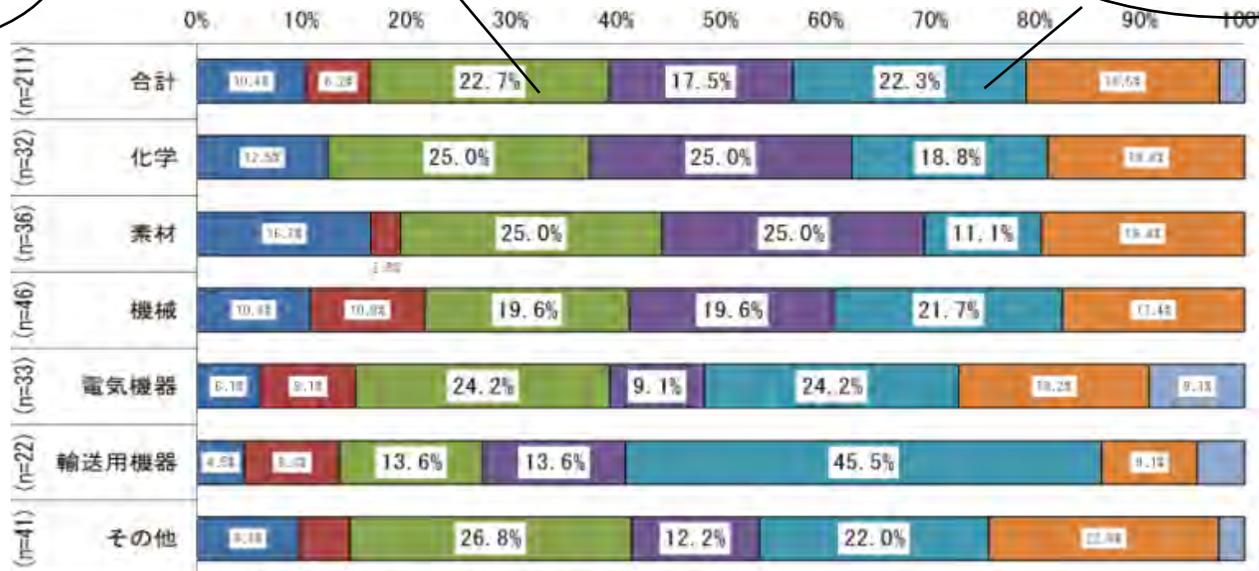
4. 為替動向と輸出価格に関する企業行動

- 2012年11月以降の円安方向への為替の動きを受けて、輸出価格の引き下げを行う予定について聞いたところ、輸送用機器では「価格改定は製品モデルチェンジの際に行っているが当面はその予定がない」との回答が多く、その他の業種では「価格を引き下げても売上増加が見込めない」が回答の上位を占めた。（2014年1月時点）

価格を引き下げても売上増加が見込めないから

【輸出価格の引き下げを行う予定がない理由】

価格改定は製品モデルチェンジ等の際に行っているが、当面はその予定が無いから

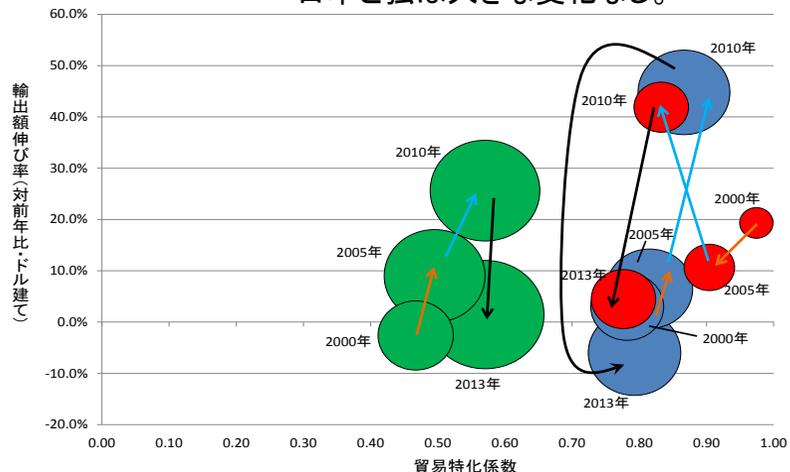


- 為替の影響が収益に対して中立的だから
- 為替リスクがヘッジできているから
- 価格を引き下げても売上増加が見込めないから
- 価格を引き下げると燃料価格上昇等のコストアップを吸収できないから
- 価格改定は製品モデルチェンジ等の際に行っているが、当面はその予定がない
- その他
- 無回答

5. 相対的な輸出競争力① (貿易特化係数)

□ 2000年代を通して、アジアの近隣諸国の輸出力が増大。

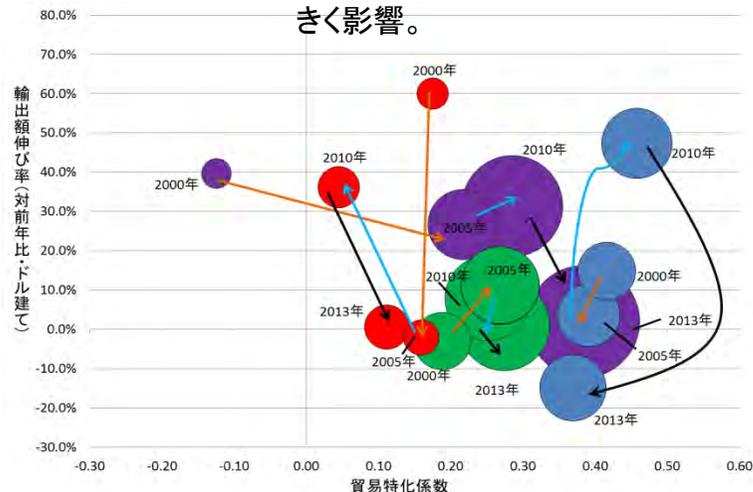
【乗用車 (HS8703)】 韓国の貿易特化係数が低下。日本と独は大きな変化なし。



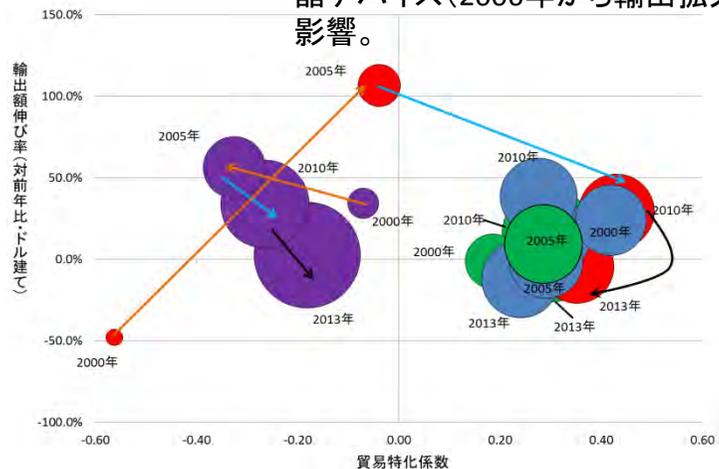
* 円のサイズは輸出額

- 日本
- 独
- 中国
- 韓国

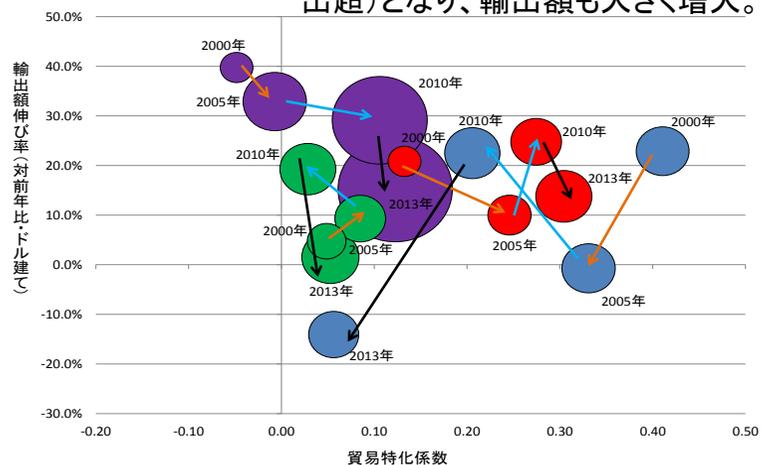
【一般機械 (HS84)】 中国の貿易特化係数がプラス(輸出超)に。パソコン(2003年から輸出超)が大きく影響。



【精密機械 (HS90)】 韓国の貿易特化係数が大きくプラスに。液晶デバイス(2006年から輸出拡大)が大きく影響。



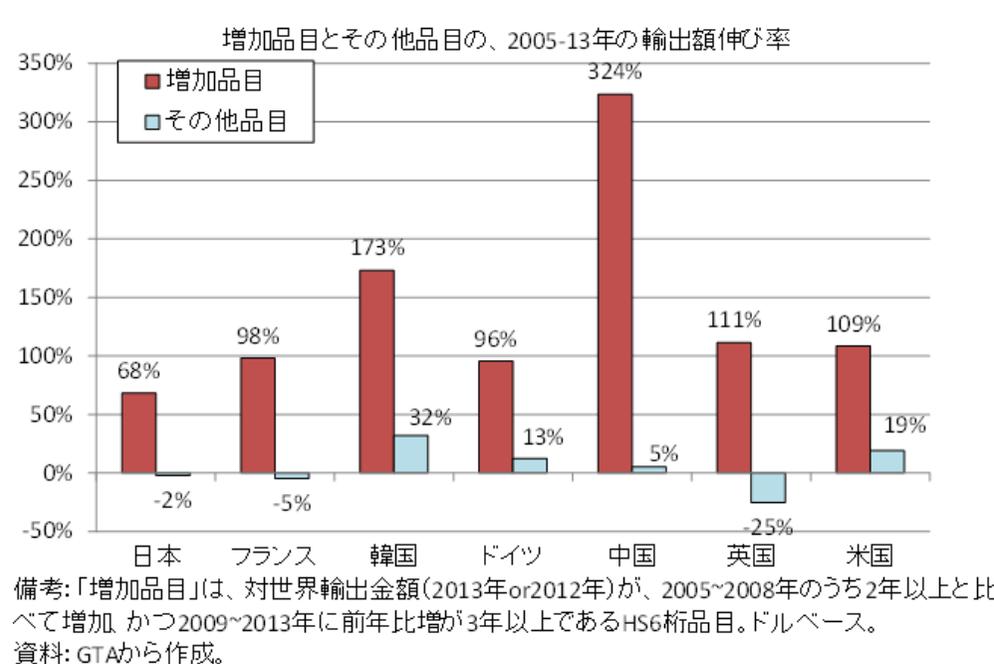
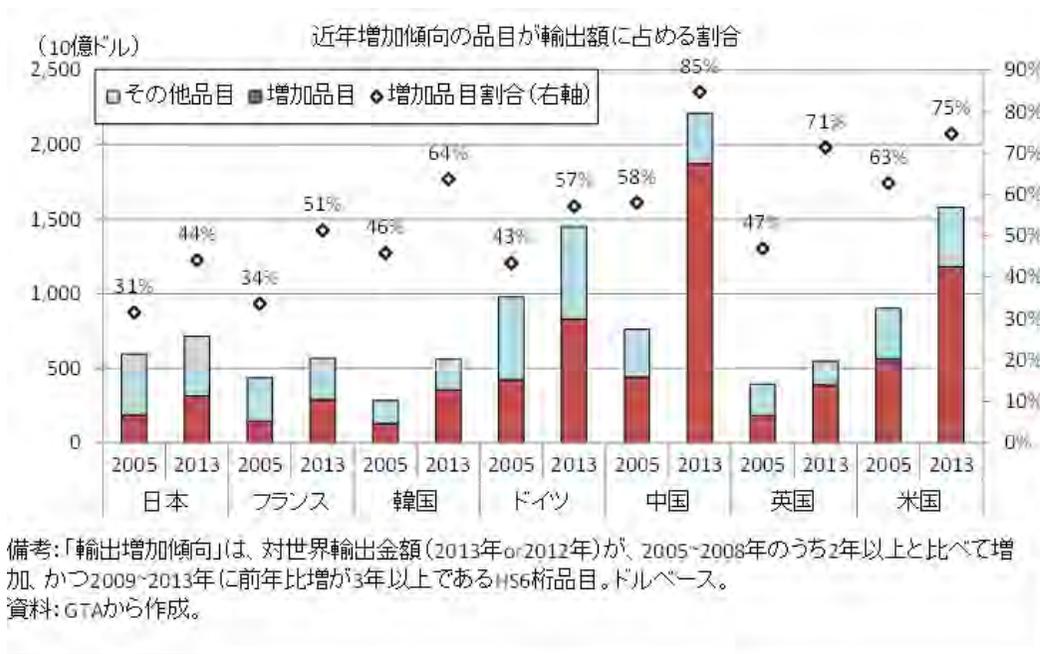
【電気機器 (HS85)】 中国の貿易特化係数がプラス(輸出超)となり、輸出額も大きく増大。



5-2. 相対的な輸出競争力② 世界需要の伸びと日本の輸出

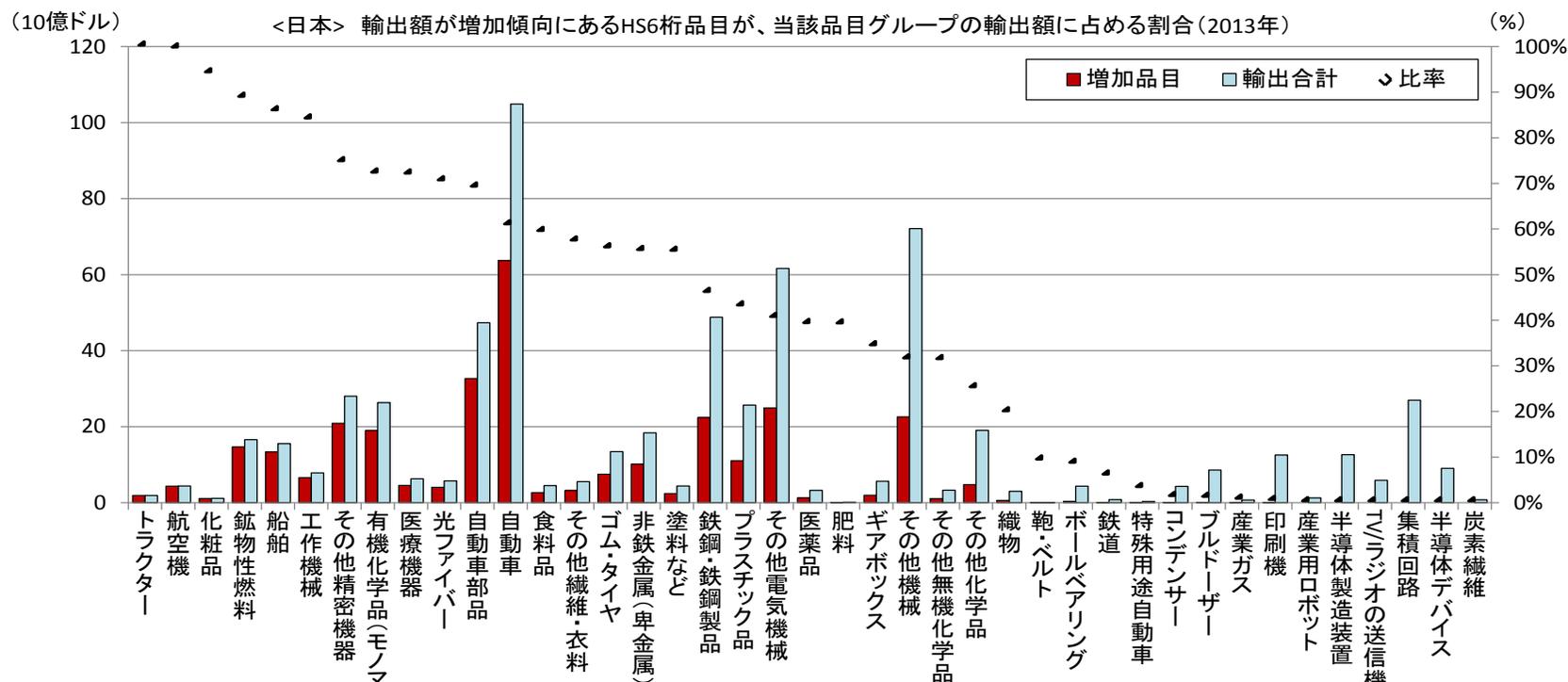
□ 輸出品を、①近年増加傾向の品目と、②横ばい又は輸出減少品目とに分けて、国際比較を行ったところ、日本は輸出額に占める①の割合が低く、かつ、①の伸び率も低い。

→ 日本は世界需要の伸びを他の先進国と比較してとらえきれていないのではないか。



5 - 2 . 相対的な輸出競争力② 世界需要の伸びと日本の輸出

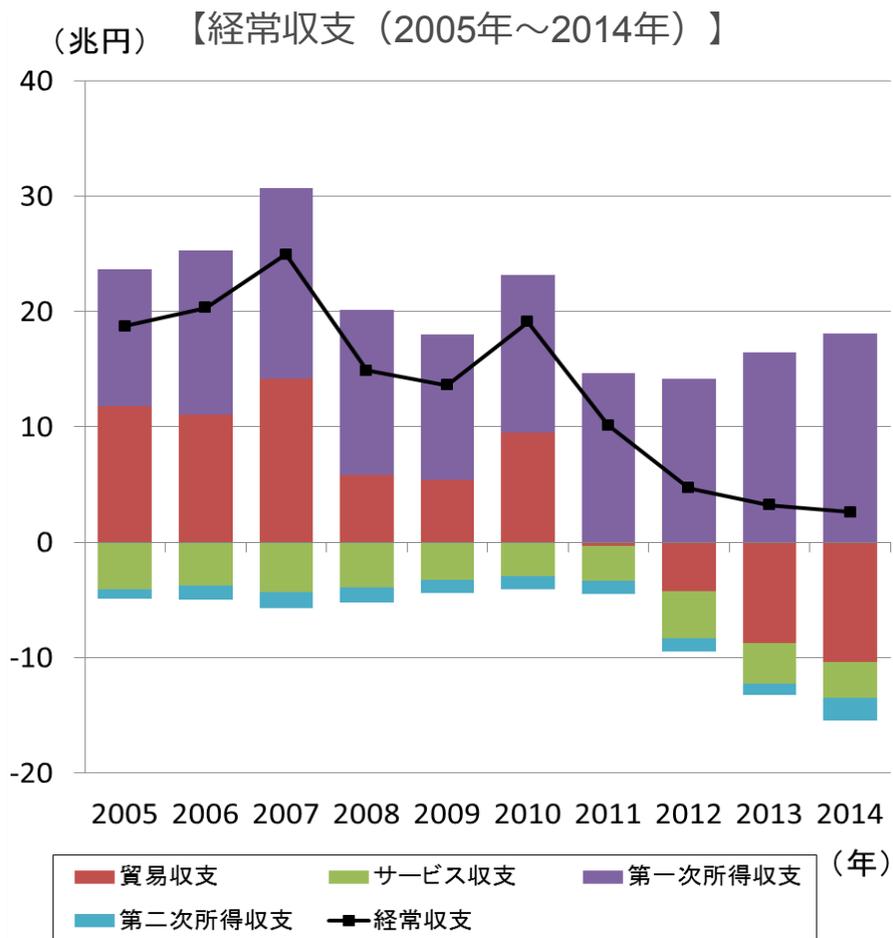
- 対世界輸出金額が増加傾向にあるHS6桁品目は、日本は、2013年の合計輸出額の44%。
- グループで分けてみると、増加品目金額規模が大きいのは、自動車、自動車部品、その他電気機械、鉄鋼・鉄鋼製品、その他機械、その他精密機器、有機化学品（モノマー）等。
- そのうち、鉄鋼・鉄鋼製品、その他電気機械、その他機械は、増加品目の輸出額が輸出額合計に占める割合が50%未満。



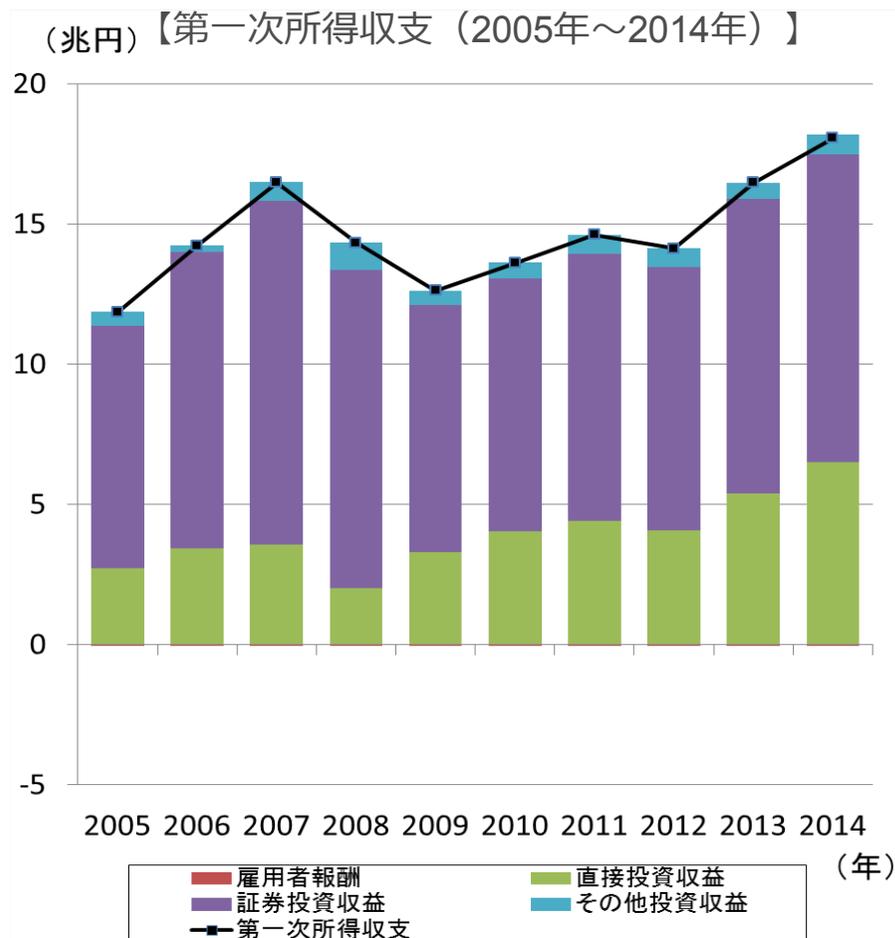
備考：日本の対世界輸出金額(2013年or2012年)が、2005~2008年のうち2年以上と比べて増加、かつ2009~2013年に前年比増が3年以上であるHS6桁品目。本グラフは、その品目が、当該品目分野の対世界輸出額に占める割合。ドルベース。
資料：GTAから作成。

6. 経常収支

- 経常収支の黒字幅は縮小傾向。貿易赤字の拡大が主因。一方、サービス収支は赤字幅を縮小。旅行収支の赤字幅縮小やロイヤリティー収入の増加等によるもの。
- 第一次所得収支の黒字幅は証券投資、直接投資ともに受取が増加し、増加傾向。



資料：財務省「国際収支統計」から作成。



資料：財務省「国際収支統計」から作成。

7. 結び

- 2011年以降の我が国の経常収支の変化は、国内の需要や産業構造の短期的な変化と長期的な変化の両方を反映したものの。
- 経常収支と国の成長力は別の問題だが、対外的な「稼ぎ方」の変化の中に、国の成長を考えるヒントがあるのも事実。
- 「輸出で稼ぐ」ためにも、「世界で稼ぐ」ためにも、日本の魅力一立地競争力を向上させていくことが必要。
- 今回の分析は、2014年版通商白書の分析の紹介と、2015年版通商白書で公表を予定している分析の一部。

2014年版通商白書 <http://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2014/>